

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	中央地区公共施設駐車場整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくれます	担当課室	生涯学習推進課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	青木 真也			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成27年度のみのものであるため、前回の評価なし。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	平成27年度で終了のため、なし。
②①に基づく取り組み結果	なし		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民(施設利用者)	意図(対象をどうするのか)	利便性の向上
②事務事業の概要	市民会館の開設に伴う中央地区公共施設の駐車場整備			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	初富駅前の無料駐車場ということから、無断駐車が懸念される。有料化を望む声もあることから、今後有料化も含め駐車場の管理運営について検討が必要。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	用地買収、所有権移転を完了し、アスファルト整備工事、区画割、車止め工事、看板設置を行い平成28年4月1日供用開始				
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	算定根拠
	i 中央公民館利用者数	97,436	66,674	95,029	人 業務取得
	ii きらりホール来場者数	-	74,932	58,438	人 業務取得
iii 図書館利用者数	#####	122,133	#####	人 業務取得	
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算
事業費(千円)		331,002	金額(千円)	内容	0
国支出金(千円)			108	需用費	
県支出金(千円)			17,153	工事費	
市債その他(千円)		248,100	149,262	公有財産購入費	
一般財源(千円)		82,902	164,479	補償補填及び賠償	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	有料時間貸駐車場として整備を進めていたが、事業者の応募がなかったため、無料駐車場として管理運営していくこととなった。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	2普通	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	第1、第2駐車場ともに平成28年4月供用を開始した。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	鎌ヶ谷市中央地区にある公共施設利用者の利便性向上を図るため、近隣の用地を購入し、駐車場整備を行う。	平成27年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	中央地区公共施設駐車場の整備及び供用開始	334,119	334,119	当初	328,675	H26からの繰越	0
H26⇒27繰越				0			
③達成状況	完了			補正	5,444	現年分	331,002
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0		
		平成28年度への繰越額(単位:千円)		0			

平成28年度 鎌ケ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	きらり鎌ケ谷市民会館の管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	市民会館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	吉野光雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	市民会館内の施設である、きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター・市民活動推進センターやショッピングプラザ鎌ケ谷と綿密な意見交換の場をもつために、月1回情報共有の場を作り、様々な来館パターンに対し、スムーズな対応を検討。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	地震や火災等が起きた際の訓練はショッピングプラザ鎌ケ谷を中心に定期的に行っているが、他店舗を舞台としての非難訓練であるため、市民会館内独自の避難訓練が必要。
②①に基づく取り組み結果	月1回、情報共有会議を行い、連携を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センター	意図(対象をどうするのか)	各施設が円滑に運営されている。
②事務事業の概要	市民会館内の併設施設である、きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センターの管理運営を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	各施設の来場者数が増加している。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	情報共有会議を開催することにより、接客がスムーズとなり、来館者増加につながった。(平成26年度きらりホール来場者数は74,932人であるが、オープニングセレモニー参加者数18,444人を含めた数であるため、通常運営期間人数は56,488人である。それと比較すると平成27年度は1,950人増加している。)					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i きらりホール		74,932	58,438	人	業務取得
	ii 中央公民館		66,674	97,939	人	業務取得
	iii 多文化共生推進センター		3,402	3,435	人	業務取得
iv 男女共同参画推進センター・市民活動推進センター		3,306	3,747	人	業務取得	
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	109,324	114,643	金額(千円)	内容	115,221	
国支出金(千円)			80,987	市民会館賃借料	80,987	
県支出金(千円)			10,237	光熱水費	10,800	
市債その他(千円)			12,733	清掃委託	12,733	
一般財源(千円)	109,324	114,643				

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	地震や火災等が起きた際の訓練はショッピングプラザ鎌ケ谷を中心に定期的に行っているが、他店舗を舞台としての非難訓練であるため、市民会館内独自の避難訓練が必要。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	市民会館内の併設施設である、きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センターの管理運営をするにあたって、市関与の妥当性、公平性、有効性は高いといえる。効率面では、複合施設という観点から利用者にとって利便性がある反面、市民会館を中心に情報共有を常に行う必要性もあることから、普通とした。また、課題に対しての対応が必要なため、拡充とする。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績		当初		H25からの繰越
		H25⇒26繰越		
③達成状況		補正		現年分
		流用・充当		
④未完了・非着手の理由	平成27年度への繰越額(単位:千円)			

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	きらりホールの管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	市民会館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	吉野光雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	貸館業務については、今までのデータの整理を行う。 自主事業については、観覧者数を増やすため、きらりホール運営委員のアドバイスをもとに、来年度以降の計画や告知方法などを検討する。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	利用案内書の見直しを行うなど、利用者にとってわかりやすいホール運営を検討。自主事業は、入場者数が少なかった過去公演の見直しを行い、PR方法等再度検討する。
②①に基づく取組み結果	貸館業務は、打ち合わせ内容をデータ化し、問い合わせに迅速に対応が出来るようになった。自主事業は、きらりホール運営委員会のアドバイスをもとに、28年度事業計画を策定。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民、市域	意図(対象をどうするのか)	市民の芸術文化活動をサポートをする。
②事務事業の概要	きらりホールの管理運営を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	きらりホールは、有料事業も行える本格的なホールであることから、発表の場としての市民ニーズは高い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	平成26年度きらりホール来場者数は74,932人であるが、オープニングセレモニー参加者数18,444人を含めた数であるため、通常運営期間人数は56,488人である。それと比較すると平成27年度は1,950人増加している。						
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠	
	i	ホール来場者数		74,932	58,438	人	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算		
事業費(千円)	58,469	52,531	金額(千円)	内容		49,079	
	国支出金(千円)		28,366	舞台保守管理委託			
	県支出金(千円)		17,761	報償費			
	市債その他(千円)		323	手数料			
	一般財源(千円)	58,469	52,531	1,966	舞台消耗品	49,079	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	ホール利用案内書がわかりづらいため、見直しが必要。また、自主事業においては、観覧者数が少ない公演が何点あったため、PR方法の検討が課題。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	5改善
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	「人づくり、地域づくり、まちづくり」の観点から考えると、市関与の妥当性、公平性、有効性、効率性は高いといえる、また、課題に対しての改善が必要である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績		当初		H26からの繰越	
		H26⇒27繰越			
③達成状況		補正		現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当			
		平成28年度への繰越額(単位:千円)			

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	文化財保護に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	笠井真利子			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	埋蔵文化財については遺漏の無いよう保護をしていくとともに、新たな指定物件や要保護物件の検討を行う。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	埋蔵文化財について遺漏の無いよう保護をしていく。外部との打合せ記録簿を作成し、情報共有の徹底を図る。引き続き、新たな指定物件や要保護物件の検討を行う。
②①に基づく取り組み結果	窓口対応の徹底を図るとともに、情報について、共有を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内遺跡、指定文化財等	意図(対象をどうするのか)	現状保存を目指す。不可能な場合は発掘調査等による記録保存を行う。
②事務事業の概要	文化財の指定・指定文化財の管理・埋蔵文化財発掘調査に係わる業務を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	首都圏近郊に位置する本市の地理的環境により、各種開発の波が市内にも及び、埋蔵文化財(遺跡)の保存策を講じる必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	市指定文化財29点中、市所有以外の26件の管理・活動に報償を支払った。埋蔵文化財確認のあった49件の事業に対し、埋蔵文化財包蔵地に該当する7件及び下総小金中野牧跡(捕込)整備のための確認調査を行った。				
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	算定根拠
	i 発掘調査件数	9	8	8件	業務取得
	ii 発掘調査面積	4,511	1,861	1,444㎡	業務取得
	iii 埋蔵文化財窓口確認数	745	730	827件	業務取得
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算
事業費(千円)	5,123	4,950	金額(千円)	内容	14,893
国支出金(千円)	1,500	1,400	300	市指定文化財管	6,400
県支出金(千円)	371	350	2,994	市内遺跡発掘調	1,301
市債その他(千円)	0		358	文化財説明板設	0
一般財源(千円)	3,252	3,200			7,192

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	文化財を未来に伝えていくための保護業務を引き続き行う。埋蔵文化財保護は開発に伴うことから予測が困難。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	文化財保護事業は行政の責務であり、調査件数が増加すると見込まれる中、今後も継続して実施する必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H26からの繰越
		H26⇒27繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	流用・充当				
	平成28年度への繰越額(単位:千円)				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	文化振興に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	4	1	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	笠井真利子			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	芸術文化活動への参加機会の更なる周知を図る	③平成27年度に取り組む改革・改善内容	芸術文化活動への参加機会の更なる周知を図る
②①に基づく取り組み結果	市民参加の機会の創出及び参加者の募集		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内に在住・在勤・在学する人	意図(対象をどうするのか)	芸術文化に関心を持ち、豊かな情操を身につけ自らも活動する。
②事務事業の概要	芸術文化事業(市民文化祭、市民美術展覧会、芸術鑑賞教室等)の実施。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	行政が提供する事業を鑑賞するという受身的な意識から「行政とともに事業を作り、運営する」という協働型の事業展開を望む市民(団体)の増加が予想される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	市民文化祭の実施及び市展の共催、芸術鑑賞教室(能楽・歌舞伎・文楽・美術)の実施。					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i 鑑賞教室応募者数	433	425	380	人	業務取得
	ii 主催芸術文化事業参加・発表者	1,910	1,836	1,866	人	業務取得
	iii 市主催芸術文化事業来場者数	6,975	10,619	10,137	人	業務取得
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	3,731	1,694	金額(千円)	内容	1,712	
	国支出金(千円)		1,057	非常勤職員賃金		
	県支出金(千円)		25	芸術鑑賞教室		
	市債その他(千円)	736	300	市民文化祭負担		
	一般財源(千円)	2,995	1,694		1,712	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	芸術鑑賞への関心が高まっており、市民の多様な芸術趣向に応え、多くの市民が参加できる機会や、来場のきっかけを作っていくことが課題である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	芸術文化の発表機会、鑑賞機会の提供は地域の文化を大切にする社会の構築に不可欠である。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H26からの繰越
		H26⇒27繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	流用・充当				
	平成28年度への繰越額(単位:千円)				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	国史跡下総小金中野牧跡保存整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	笠井真利子			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	周知普及事業等の実施により、更に市民周知度を上げるとともに、整備事業を進めていく。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	周知普及事業等の実施により、更に市民周知度を上げるとともに、整備事業を進めていく。
②①に基づく取り組み結果	周知イベントを行い、市内外に史跡の重要性を伝えた。史跡整備基本設計案を作成した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	国史跡下総小金中野牧跡 捕込・野馬土手	意図(対象をどうするのか)	市民に親しまれる史跡をめざし、周知及び、保存整備を図る。
②事務事業の概要	国史跡下総小金中野牧跡の維持管理、周知普及および史跡整備事業を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	史跡を保護するために国史跡として公有化を進め、指定後は周知普及に努めた結果、市の地域資源として市民に浸透してきたことにより、事業実施時などに整備を望む声が寄せられている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	清掃委託業務及び職員による作業によって、捕込の維持管理を行った。また、周知普及イベントを10件行い、史跡の重要性について伝えるとともに、広く史跡の存在についてPRした。整備実施計画に基づき整備基本設計を作成中である。						
②成果を表す指標	指標名称		平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i	国史跡取得面積	6,000	6,000	6,339	m ²	業務取得
	ii	周知普及事業参加者	8,610	7,838	4,441	人	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳			平成28年度予算	
事業費(千円)	4,353	2,691	金額(千円)	内容		41,165	
	国支出金(千円)		192	検討委員会報償		29,188	
	県支出金(千円)		499	清掃管理委託		2,432	
	市債その他(千円)		2,000	実行委員会負担		0	
	一般財源(千円)	4,353	2,691			9,545	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	史跡地を公有化し、保護活用・整備し、更なる周知の裾野を広げることを目指して、事業展開していくことが必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	史跡地を公有化し、保護活用することは芸術・文化の振興を図るうえで極めて重要で、整備をして、周知する必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	周知普及・整備実施計画作成	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	清掃管理業務、普及活用イベントの実施	6,780	6,780	当初	6,780	2,691	H26からの繰越	
				H26⇒27繰越				
③達成状況	未完了			補正			現年分	2,691
④未完了・非着手の理由	成果品(整備基本設計)の完成が遅れるため。			流用・充当				
				平成28年度への繰越額(単位:千円)		4,061		

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	郷土資料館の管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	4	6	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課 郷土資料館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	立野 晃			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	ソフト(展示・教育普及)には市民ボランティアを活用し、ハード(施設)では簡易修繕制度を利用し引き続き整備する。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	ソフト(展示・教育普及)には市民ボランティアを活用し、ハード(施設)では簡易修繕を利用し引き続き整備する。
②①に基づく取り組み結果	市民ボランティアによる常設展示のガイドや教育普及の補助を行った。修繕ではトイレの内装等修繕を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	全ての市民	意図(対象をどうするのか)	先人の足跡を辿りその生活等を知ること、ふるさと意識の醸成をはかる。
②事務事業の概要	鎌ヶ谷市の歴史、自然などに関する資料を収集、保管して調査研究をするとともに、展示事業や教育普及事業を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	生涯学習においては、市民の私的欲求を満ち文化財保護や郷土意識の心をはぐくむこと。学校教育においては、教育現場での効果的な学習ができるように支援することが必要。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	(1)郷土資料の収集 (2)常設展示 (3)企画展示 (4)講座・教室 (5)講師派遣					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i 来館者数	6,286	5,524	5,285	人	業務取得
	ii 展示事業実施回数	3	3	3	回	業務取得
	iii 教育普及事業実施回数	39	69	62	回	業務所得
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	9,180	10,176	金額(千円)	内容	8,246	
国支出金(千円)			54	市史編さん審議会		
県支出金(千円)			10122	施設管理運営費		
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	9,180	10,176			8,246	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	ソフト(展示・教育普及)を担う市民ボランティアのさらなる育成と、ハード(施設)の計画的な修繕				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	収集、調査、研究をし、展示事業や教育普及事業を行う。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H26からの繰越
		H26⇒27繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	流用・充当				
	平成28年度への繰越額(単位:千円)				

平成28年度 鎌ケ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	鎌ケ谷市史編さん事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	6	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課 郷土資料館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	立野 晃			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	『鎌ケ谷市史【下巻】』、『市史研究』第30号、及び『鎌ケ谷のあゆみ(4訂版)』を刊行。	③平成28年度に取組む改革・改善内容	市史編さん終了後の史料の散逸を防ぐ方策を検討。『鎌ケ谷市史【下巻】』、『市史研究』第30号及び『鎌ケ谷のあゆみ(4訂版)』を刊行。
②①に基づく取組み結果	市史刊行計画に沿った27年度事業については、停滞なく完了した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	全ての市民	意図(対象をどうするのか)	先人の足跡を辿りその生活等を知ること、ふるさと意識の醸成をはかる。
②事務事業の概要	『鎌ケ谷市史刊行計画』に基づき、郷土の歴史、民俗等に係る資料を収集・調査し、鎌ケ谷市史の執筆・刊行を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市内に残されている自然、民俗などの資料や文化財を収集・保存し、展示することを目的とした郷土資料館が昭和62年に開館。生涯学習・学校教育において歴史の関心が高まる中、市史が完成していないことや資料の多くが展示できていない状況。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	(1)郷土資料の整理調査、史料調査(51件)、史料整理・目録作成(4,425点)を行った。 (2)新たに発見、確認された重要な歴史事項についてまとめた『鎌ケ谷市史研究』第29号を刊行。						
②成果を表す指標	指標名称		平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i	生涯学習・学校教育の場での利用者	8,414	7,332	10,050	人	業務取得
	ii	刊行物点数	2	1	1	点	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算		
事業費(千円)	8,926	8,632	金額(千円)	内容	13,300		
	国支出金(千円)		312	印刷製本費			
	県支出金(千円)		8,320	市史編さん委託			
	市債その他(千円)						
	一般財源(千円)	8,926	8,632		13,300		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市史編さん終了後、編さんのため収集した史料の散逸				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市史刊行計画に沿った事業を進める。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	『市史研究』第29号の刊行	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	市史研究650冊	8,790	8,790	当初	8,790	8,632	H26からの繰越	0
				H26⇒27繰越				
③達成状況	完了			補正			現年分	8,632
④未完了・非着手の理由		平成28年度への繰越額(単位:千円)						